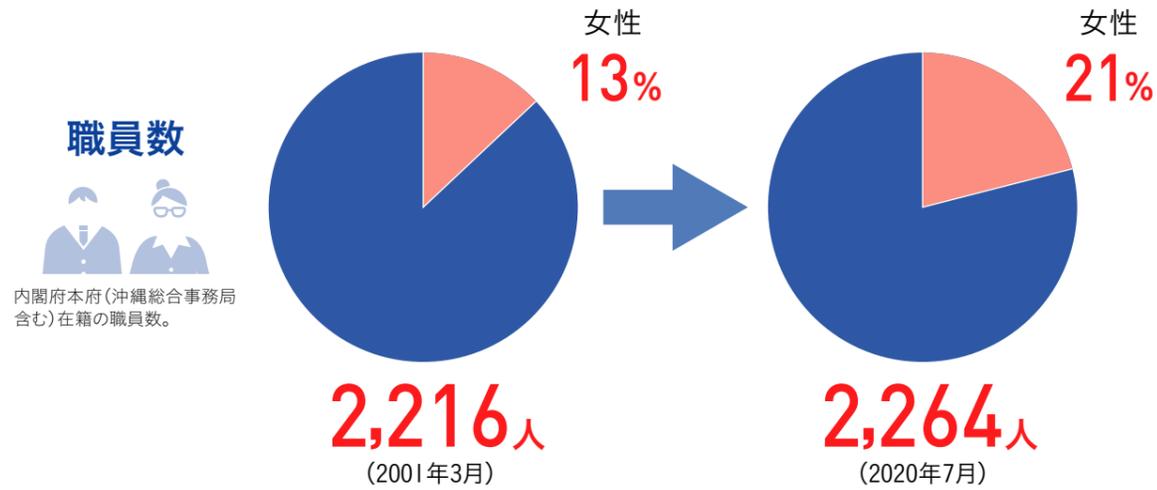
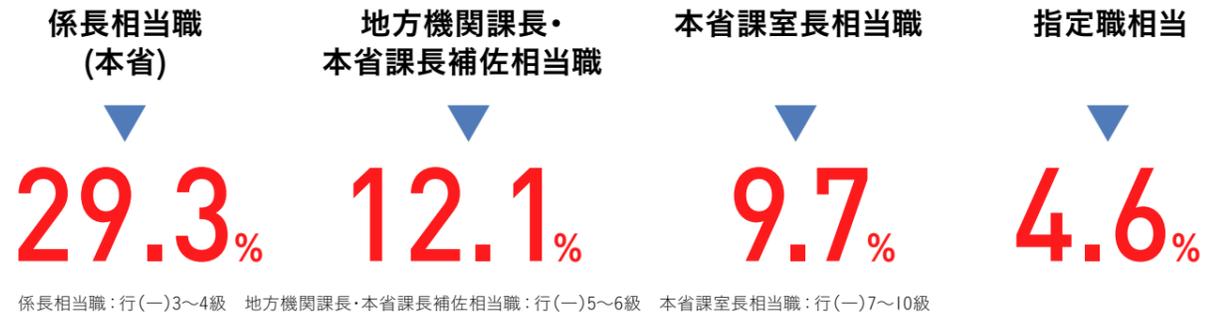


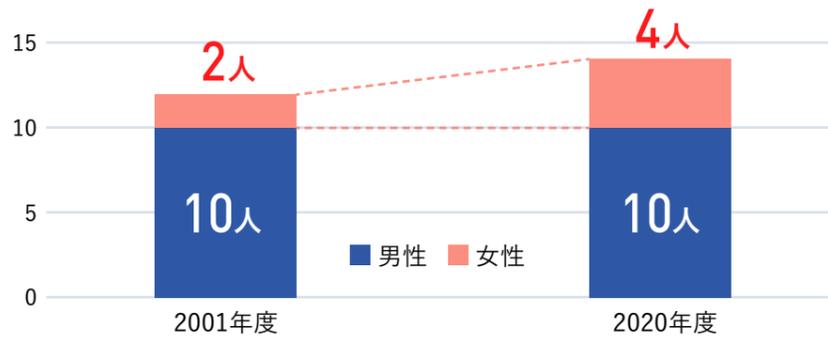
# データで見る内閣府



## 役職別の女性職員割合 (2019年7月)

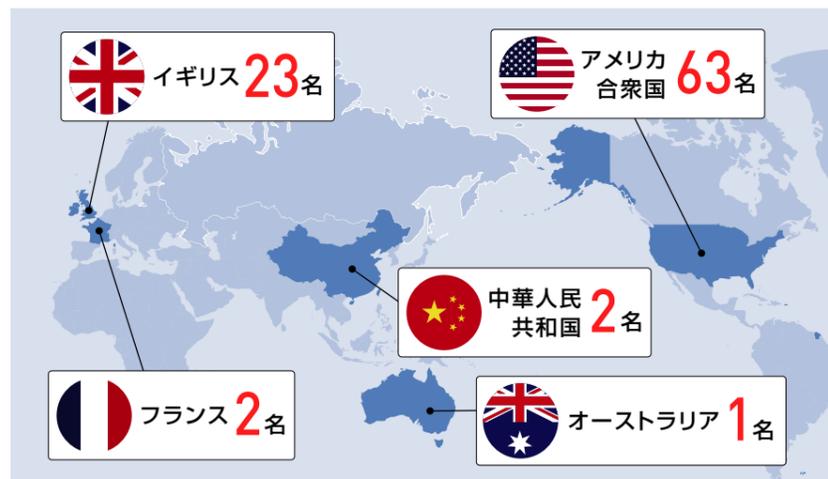


## 採用者数 (I種/総合職)



## 留学者数 (長期在外研究員派遣) (2001年度～2020年度)

**91名**



## 男性の育児休業取得率 (2019年度)

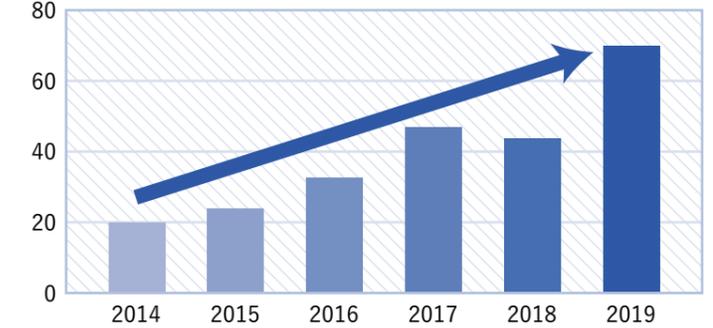
**18.5%**

## 男性職員の「男の産休」5日以上取得率

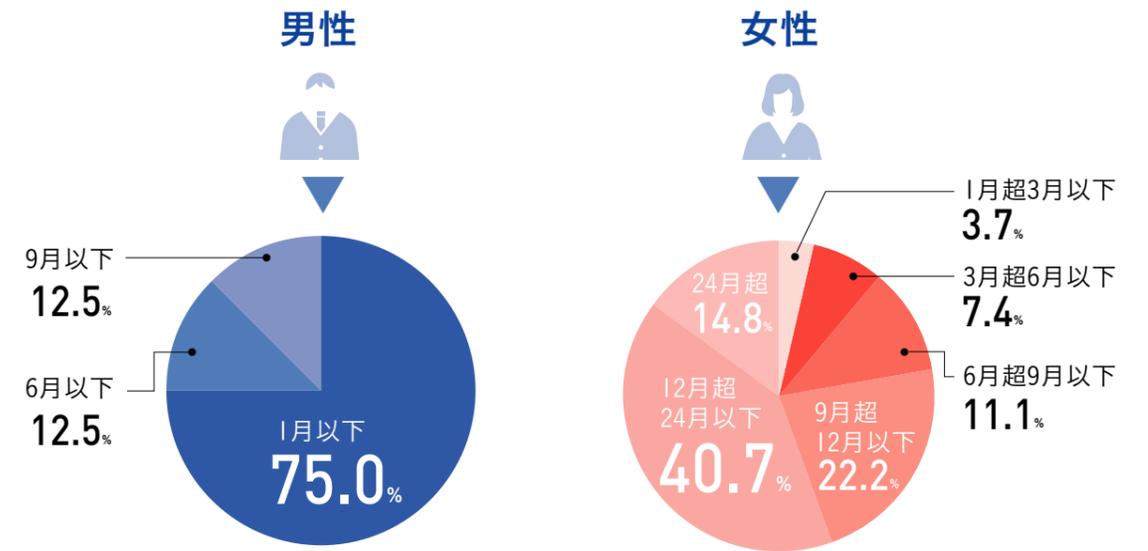
男の産休：配偶者出産休暇(2日)及び育児参加のための休暇(5日)

## 女性の育児休業取得率 (2019年度)

**100%** **70.4%**



## 育児休業取得期間の分布状況 (2019年度)



## テレワーク実施率 (2019年度にテレワークを) (実施した職員の割合)

**59%**

## 年次休暇平均取得日 (2019年度)

**12.1日**

## 内閣府が出している白書の数 (2019年度)

白書とは、行政活動の現状や対策・展望などを明らかにした年次報告書。

**9冊**

- 経済財政白書
- 原子力白書
- 防災白書
- 子供・若者白書
- 少子化社会対策白書
- 高齢社会白書
- 障害者白書
- 交通安全白書
- 男女共同参画白書

# 採用関連情報

皆様からのよくある質問の中から代表的なものをご紹介します。その他のご質問につきましては、「内閣府総合職採用担当窓口」までお問い合わせください。

## 求める人材像について

### Q1 内閣府ではどのような人材を求めているのですか？

**A** 内閣府は、内閣及び内閣総理大臣の主導による国政運営を実現するために設置された、内閣総理大臣を長とする機関です。各省が行政事務を分担管理しているのに対し、内閣府は、各省より一段高い立場から、我が国の経済・社会の在り方そのものに関わる国政上の重要かつ最新の政策課題について、将来のビジョンをつくっていきます。よって、自分なりの強み、得意分野とともに「既存の枠組みに必ずしもとらわれない柔軟性」「広い視野」「バランス感覚」が求められます。また、総合調整の過程では、優先順位と目標設定を明確にして、各省を引っ張っていく力も必要です。

ただし、内閣府で仕事をしているうちにこれらの力は自ずと磨かれていくでしょう。重要なのは、そうした力を持った自分になりたいという意欲や、新しい課題に取り組んでいくことのできる熱意です。

## 採用について

### Q2 出身大学・学部・試験区分、院卒／既卒などの違いは、採用の際にどのように影響するのですか？

**A** 幅広い業務を掌握する内閣府では、多様な専門性を持った職員が必要です。ですから、特定の大学・学部や試験区分に優先枠を設けたり、新卒／院卒の一方を優遇したり、などということは一切行っておりません。採用はあくまでも「人物本位」です。

院卒／既卒については、大学院での勉強や職歴がどれだけプラスとなっているか、新卒については基礎的な素養と十分な将来性があるかを判断することになります。いずれにせよ、「ありのままの自分」をアピールしてもらえればよいのです。

### Q3 採用前にも内閣府の業務全体について幅広い知識が必要なのでしょうか？採用後の勉強はどうすればいいですか？

**A** 内閣府の業務のうちいくつかについてはあらかじめ興味を持ってほしいですが、採用の段階ですべてについて知っている必要はありません。それよりは、**学生時代にどういう経験をし、何を考え、何を学んできたのかということの方が重要**だと考えています。内閣府に入ってから、一夜漬けで暗記したような表面的な知識は役に立ちません。それぞれの部局で必要となる各論的な知識や個々のスキルは、実際に仕事をしながら身に付けていくしかありません。なんでも積極的に学ぼうという姿勢を忘れない限り、たいいていの仕事にはすぐに対応できるようになります。

他方、内閣府で働くうえで大切にしなければならないのは、**誰にも負けない自分の強みを持ち、絶えず磨きをかけていくこと**です。リーガルマインド、経済分析能力、人と人をつなげる力、ものごとをまとめ上げる力、なんでも構いません。どんな問題にも通用する独自の「得意技」を持ってください。行政の内外から優秀な人材が集まる内閣府で、皆さんが先導的な役割を担っていくためには、周囲の人から一目置かれるような「得意技」が必要なのです。

また、自分のライフワークとして取り組みたい課題については、違う部局で働いているときも勉強を続け、いつ呼び出されても即戦力として期待に応えられるようにしておきましょう。この分野は自分に任せる!というフィールドがあると、他の分野でも自信を持って仕事ができます。

### Q4 採用される試験区分によって配属先やキャリアパスは異なるのですか？

**A** 内閣府の業務は広範多岐にわたっていますから、採用試験区分に関わらず、職員はその意欲と能力、適性に**いろいろな分野で活躍することが可能**です。例えば経済職なら、経済財政政策を決定する中枢部に入って理論を政策に結び付けていくような仕事をする道もあれば、調査・分析の分野での専門性を高めていく道があります。法律職であれば、とにかく法律の作成・改正作業に携わりたいという人もいれば、男女共同参画など個別のテーマに関心が深いという人もいるかもしれません。

もちろん経済職の人が法律案を作成したり、法律職の人が経済政策に携わることもあります。皆さんは将来の幹部候補生として採用されるのですから、自分の専門性に厚みを加え、自分の新しい可能性を広げるためにも、**得意分野以外のことにも積極的に挑戦していくことを期待**しています。

## 採用後について

### Q5 採用後は、自分が興味を持っている部局に配属されるのですか？

**A** 配属先は、皆さんの希望を踏まえつつ、能力、適性や人材育成上の必要性なども総合的に考慮して決定されます。したがって、常に希望通り配属されるとは限りませんが、少なくとも入府後の数年間は、自分の可能性を試すいい機会だと思っいろいろな業務にチャレンジしてみてください。なお、入府後、配属先に関する希望を申告する制度もあります。

### Q6 採用後は、どのように昇進していくのですか？

**A** 入府した年は、まず主に各部局課室の総括担当のラインに配属され、府内の業務がどのように進められていくかを実地で学んでもらいます。この間に、国会対応、法令業務など公務員としての基本的なスキルを身に付けます。

その後の2年間でさらに1~2部局を経験した後、係長クラスとなり、重要な職責を担っていきます。留学や他省庁への出向を経験するのもこの頃です。これまでの例では、入府8年目で課長補佐クラスに昇進しています。その後は能力次第でさらに課長クラスとして活躍していくことになります。

### Q7 転勤はあるのですか？

**A** 内閣府の勤務地は、主に東京都となります。他の多くの省庁のように数年おきに転居を繰り返すといったことがないので、単身赴任などの心配も少なく、生活設計を立てるのも容易です。

### Q8 女性にとって働きやすい職場なのでしょうか？

**A** 国家公務員は、家庭と仕事の両立支援制度も充実しており、ライフステージに応じた働き方をすることが可能です。(参照 人事院ホームページ <https://www.jinji.go.jp/ikuzi/toppage.html>)

実際に、内閣府では、子育て中の多くの男性職員、女性職員が活躍しています。本パンフレットでも、ワークライフバランスについての取組を紹介しておりますので、御参照ください。(P.47~48)

## 総合職採用実績 ※( )内は女性の数

区分/年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
院卒(行政)	3	4	1	5(3)
大卒(法律)	2(2)	4(2)	5(2)	4(2)
大卒(経済)	1(1)	6(2)	5(2)	4
その他	3 大卒(工学)1 旧I種(理工I)1 旧I種(経済)1	1(1) 旧I種(理工I)1	2(1) 大卒(教養)1 大卒(人間科学)1	2(1) 大卒(教養)2
計	9(3)	15(5)	13(5)	15(6)

区分/年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
院卒(行政)	2	4(2)	3(1)	1
大卒(法律)	5(1)	4(1)	4(2)	3(1)
大卒(経済)	5(1)	2(2)	2(0)	6(1)
その他	—	3 大卒(教養)2 大卒(化学・生物・薬学)1	4(1) 大卒(教養)1 大卒(人間科学)1 院卒(人間科学)1 院卒(森林)1	4(2) 大卒(政治国際)2 大卒(教養)2
計	11(3)	11(3)	13(4)	14(4)

## 内閣府総合職採用担当窓口 大臣官房人事課企画係

〒100-8914 千代田区永田町1-6-1 03-5253-2111(内線31323)  
<https://www8.cao.go.jp/jinji/saiyou.html>

